

**2022年 第1回 日本救急医学会 男女共同参画推進特別委員会  
令和4年1月21日議事録**

日時：2022年1月21日15時—17時 Zoom開催

参加者（敬称略）：

司会（委員長）：山口順子（日本大学板橋）

委員：伊藤 香（帝京大学）、江川裕子（埼玉赤十字）、窪田生美（札幌市保健福祉局）、七戸康夫（国立病院機構北海道）、寺嶋真理子（国立病院機構京都）、中本礼良（東京女子医大東）、萩原佑亮（東京都立小児総合）、番匠谷友紀（但馬救命）、守谷 俊（自治医大さいたま）、山田成美（国立病院機構長崎）

担当理事：横堀将司（日本医科大学）

オブザーバー：岡田遥平（京都大学）、佐藤信宏（新潟市民）、本田英喜（救急外来部門検討委員会委員長）

前委員長：木田佳子（広島大学）

前委員：並木みずほ（東京女子医科大学）、長谷敦子（長崎大学）

1. 新規委員の皆様方のご紹介
2. 2021年委員会活動報告（資料1：男女共同参画推進委員会活動報告書）
  - 今年度も、年3-4回のペースで開催していく。
  - 女性評議員とのWeb会議も継続していく。
3. 第48回日本救急医学会総会・学術集会での委員会企画の振り返り（資料2：委員皆様方からのご意見内容）
  - 前委員の小澤先生より、詳細な報告があがっている（資料4）。内容を検討し、今年度の企画内容へつなげていく。

4. 新規委員2名追加についてのお伺い

佐藤信宏先生（新潟市民病院）

岡田遥平先生（京都大学）

- 両先生より自己紹介があり、委員追加に関して、代表理事の横堀先生よりご承認いただいた。当委員会に男性医師が増えることで、男女問わず、これからの子育て世代の抱える問題について多角的に取り組むことをめざす。

5. 本年の委員会の活動について

5-1 報告

- ・本学会から、日本外科学会へ「日本医学会分科会における女性医師の割合アンケート調査」データを提出（資料3：「日本医学会分科会における女性医師の割合アンケート調査」）
- ・これまでの本委員会の活動報告を本学会誌調査報告として投稿執筆中

・商業誌投稿依頼については、前委員長 木田先生が執筆されることに。  
編集部から正式な依頼はまだ出されていない模様。今後、進捗を報告する（伊藤）。

・ IEFM CAFP Woman in Emergency medicine symposium

See.

<https://www.ifem.cc/women-in-emergency-medicine-around-the-world-symposium/5-2>

- 山口委員長が聴講。世界的にも、アカデミアとして活躍する女性救急医は少ない状況。とくにアジア諸国ではその傾向が強い。当委員会としても引き続き、注目していく（山口）。

## 5-2 本年委員会活動企画のお伺い

・学術集会 委員会企画について

- 女性の取り組みに関しては、進捗が見えてきた。これからは女性以外の視点を入れていくことが重要になる。これまでも、所属長の意識調査や、男性救急医に対するアンケートなどの案が出てきた（山口）。

- 第48回企画から、女性参画促進のスピードが遅く、スピードアップのためのアクションプランが必要であると考えられた。まずは、今までの活動をまとめ上げ、そこから、提言となるような“一文”が出てくるだろう（守谷）。

- 救急医学会の「働き方改革」のステートメントのような、みんなが分かるようなコメントを考えていきたい（山口）。

- 山口委員長が、本学会のこれまでの活動内容を調査報告書として執筆中。

・HP 更新整備業務について

- これまでは前委員の小澤先生が文章を考えていた。昨年はコロナの影響で作業が止まっている。

- 作業行程としては、過去に行った最初の3回のアンケートに関してはすでに掲載されているので、その後をアップデートするところから始める（木田）。

- まず委員の皆様方へこれまでの活動概要をお知らせしたうえで、具体的な更新整備業務について検討を行い、事務局へご依頼し、理事を通じて予算建てをお願いをする方針。（山口）

・女性評議員皆様方との Meeting について

- 今年も Web 開催となるだろう。

- 前回ミーティングでは、前代表理事の矢口先生より、各委員会の女性枠を規約化する提案などがあった。これからも引き続き、当ミーティング内でも議論していくべき。（横堀）

・その他

- 次回の委員会では、今年度委員会企画に関して具体的に話し合う（山口）。
- 他学会でもやっているように、当委員会の中にワーキンググループを作り、学術集会内での企画だけでなく、継続できるような活動を目指すのはどうか。例えば、研修医相談会、キャリアプラン、育ボス調査など（番匠谷）。
- 最近職場で育休取得する男性医師が増加しており、女性だけでなく男性の視点も重要（寺嶋）。
- 一昨年、昨年と、コロナ禍で「ラウンジ」が開催できていないが、男性視点も大事ではあるが、やはり、（弱い立場にある）女性に手を差し伸べられるのは当委員会だけにしかできない。なんらかの形で継続を（番匠谷）。

文責：伊藤